

カワガラス *Cinclus pallasii* Temminck

【選定理由】

丘陵地から山間部にかけての河川に周年生息し繁殖するが、移動性が少ない種であり河川環境が悪化すればその河川から姿を消すことになる。近年は観察記録が減少しており、県内の河川中上流域の河川環境が悪化していると考えられる。2006年以降の調査において、県内における生息範囲と生息数の減少が確認されたことで、初版の準絶滅危惧から絶滅危惧 類と評価された。

【形態】

全長 21～23cm。全身が黒褐色でずんぐりした体形。脚は黒褐色で前面が銀色。幼羽は、前頸から腹にかけて汚白色の斑がある。成鳥の虹彩は茶色。



京都府, 1986年3月16日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

アフガニスタン、トルキスタンからヒマラヤ、インドシナ北部から中国、台湾、朝鮮半島、ウスリー、サハリン、千島、カムチャツカに分布。日本には、屋久島以北に周年生息し繁殖する。

県内には、丘陵地から山間部にかけての河川に周年生息する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

丘陵地から山間部の岩の多い河川や溪流に周年生息し繁殖する。なわばり性で、季節移動は少ない。水中を翼を用いて泳ぎ、また水中を歩いて水棲昆虫、甲殻類、魚類を捕食する。溪流の中の岩の間、滝の裏側、倒木の陰などにコケを使って球形の巣を作る。ピーツ、ピーツと鳴き、チーチージョイジョイと囀る。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

近年は、都市に近い丘陵地ではほとんど見ることができなくなった。減少の要因は明らかでないが、丘陵地の沢は水量が不安定なうえ、河川改修などの改変が施され営巣や採餌の環境が悪化したことが考えられる。

【保全上の留意点】

丘陵地から山間部の河川の自然性確保に努める必要がある。

【関連文献】

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.154. 文一総合出版, 東京.